

令和6年3月25日

学校法人 敬心学園

令和6年度 事業計画書



敬心クレド

—他人を敬い自らを律し、人々の心を最も大切にします—
—一人ひとりが輝いて生きる社会を創造します—

〈はじめに〉

敬心学園は、「他人を敬い自らを律し人々の心を最も大切にします」との理念のもと、「一人ひとりが輝いて生きる社会を創造します」という使命に基づき、これからも「志」を育む教育を実践してまいります。国内のみならずワールドワイドな社会課題に関心を持つとともに、その解決に意志を持って取り組み、高い専門的能力を発揮できる人材、また変革を推進できる人材を育成することを目標にしています。

そうした「自律的な人材の育成」の実現に向けて、各分野の最新情報を把握し教育内容をアップデートするとともに、現場業務の発展に役立つよう「知っている」を「できる」に変える実践的な教育手法にも取り組んで参ります。社会構造が大きく変化し、様々な課題が見えてきているなか、職業教育における高等教育機関として、業界ならびに社会の負託に応えられるよう、引き続き有用な人材の輩出に努めていく所存です。

〈令和6年度の主な事業計画〉

I. 各校における重点的な取り組み

■東京保健医療専門職大学における重点的な取り組み

【AC（アフターケア）終了、全教職員連携し、再建に向け新たなスタート

～学修者目線の教育の質向上・魅力創出と学生募集の強化～】

<取組（概要）>

「1.教育」と「2.学生募集」を2大重点取り組みとし、
「3.管理体制」で支え推進する。「4.研究」は、専門職大学としての
価値創造に資するように推進する

大項目	中項目	目標指標・実施項目他
1. 教育について 教育の質向上・ 学生支援体制の強化	① 国家試験対策 ② FD・教育の 質向上 ③ 中退率改善	・ 学生満足度調査・指標 の設定と初回実施 ・ 国試合格率 100% ・ 中退率 5%以下
2. 学生募集について 体制強化・ブランディング	① 学生募集体制 強化	・ 2025R7 年度入学生 合計 120 人以上
3. 管理体制について ガバナンス整備と仕組化	① PDCA 体制構築 ② 事務局人員定着 率の改善	・ 会議体見直し ・ 定着率調査 ・ 目標定着率設定
4. 研究について 体制整備・資金獲得	① 体制整備 ② 科研費（競争的 資金）獲得	・ 目標設定在り方検討 ・ 科研費（競争的資金） 獲得

<取組（個別）>

1. 教育について：教育の質向上・学生支援体制の強化

➤教育力の強化と魅力ある学習環境づくり

- ◎国家試験対策…全学教職員一丸となって100%合格を目指した指導強化
- ◎FD・教育の質向上…授業アンケートや研修の強化、教育力向上への取り組み
- ◎新教員体制…定年超教員の退任に伴う若手・新任教員の登用により授業活性化
担任等・学修アドバイザー体制の再構築検討・改善実施
- ◎新カリキュラムの策定…2025R7年度導入に向けた作業開始
- ◎中退率の改善…学科内情報共有、対応力の強化で中退率5%以下に
- 臨地実務実習の強化…円滑な実施と実習先の開拓、確保
- 委員会活動…委員会活動の見直しと実効性の確保
- キャリア支援…国試対応と連動させ、きめ細かな就職指導で就職率100%目標

2. 学生募集について：体制強化・社会貢献・産学連携推進と、ブランディング推進

➤(1) 学生募集の強化…目標募集定員充足率75%（2025R7年度入学生120名）

内訳： PT（理学療法士）学科80名（学科定員充足100%）

OT（作業療法士）学科40名（学科定員充足50%）

- ◎入試広報部長（新設）…教職員一体となった募集活動の推進
- ◎募集活動の進捗管理と分析、独自の魅力を訴求しブランディング
- 情報発信力の強化…HPや動画を活用。資料請求からの来校率を向上
（資料請求来校率4.5%）
- OC（オープンキャンパス）や説明会の質向上・運営体制強化
…来校出願率を向上（来校出願率28%）

➤(2) ブランディング強化

- ◎新機軸のコンセプト「医療×○○」「リハビリ×○○」等、
新たな魅力の創出を検討し、他校にない学校・学科の特長を前面に出す
…新概念に連携する展開科目の設置検討。関連企業との連携の促進

➤(3) 地域貢献・産学官連携

- 江東区との連携事業の進化…既存事業（認知症カフェ、出前講義、子ども科学教室、インターンシップ等）の継続・強化、新規事業（パラスポ等）の開発。
- 産学官連携…地元団体（こらぼら等）との連携事業の開発。学生ボランティア活動推進。地元企業（UR都市機構等）、福祉関連団体（江東区社協等）との協働事業。

3. 管理体制について：経営基盤の整備と強化

- (1) 管理体制の整備と運用
 - ◎「専門職高等教育質保証機構」による分野別認証評価の受審
 - ◎新教員体制の構築（人員削減）と処遇改善（若手登用）
 - 委員会、連携協議会、自己点検評価、FDSD 研修活動等の見直しと内部質保証強化
- (2) 財務・運営基盤の整備・強化
 - ◎戦略的投資の検討…応募生徒・保護者へのアピール・学生満足度の向上等に資する投資の検討とその他の経費削減
 - ◎インフラ整備…特別区による建物修繕工事と老朽設備の自主改修工事の実施
 - 経常費補助金の受給開始…受給戦略の検討
 - 新カリキュラム策定に伴う教員人員構成の見直し
 - 人事制度・評価制度の検討、明確化と運用

4. 研究について

- 研究体制の整備・大学への価値創造に資する研究の推進
 - 競争的資金の獲得推進と研究費・科研費の管理体制の整備
 - 展開科目領域を含めた科目横断型共同研究の推進
 - 専門職大学の位置づけに沿い、特色を活かした地域連携・産学連携等当学の価値創造に資する研究活動の推進

■日本福祉教育専門学校における重点的な取り組み

経営基盤強化に向けて、5年後のあるべき姿を設定するとともに、ビジョン 2025 の次なるビジョンを策定し、その達成に向けて具体的な行動計画を展開します。

また、経営業績重要指標（学生募集、中退抑止、国家試験合格、就職）を継続的に達成できる組織づくりを重点課題と捉え、組織体制（組織図、所属、委員会）の再整備を通じて、学内組織における役割行動の明確化を図ります。

1. 経営基盤強化の取り組み

- (1) 属人型、個業型から組織型運営への転換
- (2) ビジョン 2025 の次なるミッション・ビジョンの策定
- (3) ”組織の階層化と役割の明確化” と ”委員会組織体制の再構築”
- (4) イコールパートナー風土の醸成とチャレンジ風土の涵養

2. 教育的取り組み／重点経営指標達成に向けた重点的な取り組み

- (1) 課程・学科別（通学（学科別）・通信）の募集戦略の構築と確実な遂行
- (2) 1年課程・2年課程別の重点目標の設定（国家試験合格・中退抑止など）

- (3) 経營業績の重要指標を達成するために、組織的に PDCA サイクルを展開
- (4) 通信教育課程における 3 ポリシーの設定と教育サービスの発展

3. 中長期的な戦略

- (1) 評価報酬制度の適正な運用を通じた人材育成基盤の構築
- (2) 財務基盤安定に向けた施設・設備計画の推進
- (3) 安定した収益の確保に向けた、附帯教育事業の見直しと学科再配置等の検討

■日本リハビリテーション専門学校における重点的な取り組み

1. 重点的取り組み

- (1) 学内運営体制の改善
 - 決定事項の学内浸透強化および事業計画推進スピードを上げる
- (2) R8 年度以降の昼間部年限検討結果に応じた申請対応
- (3) 学科の魅力開発
 - 日リハの今後を考える会を設置し、学校・学科の魅力づくりに継続的に取り組む
 - ◆昼間部：100%卒業&100%国家試験合格を目標とした取り組み
 - －学生が辞めない支援体制の構築と周知
 - －授業設計・展開
 - －高校新卒者をターゲットとした興味接点開発（4年課程の場合）
 - ・スポーツ系、美容系コンテンツ等の検討・NITT とのコラボレーション
 - ◆夜間部：働きながら資格取得を目指す学生を徹底支援
 - －オンデマンド授業の導入（夜間1年生）
 - －医療・福祉領域でのアルバイト施設数拡大
 - ・現状 40 施設→3 年以内に 100 施設に拡大（R6 年目標 55 施設）
 - ◆卒業教育の充実
- (4) 中退率改善（学校として 5%以内）
- (5) 支出抑制項目の決定と目標設定
 - －ex) 実習費削減 3 年目標の設定
 - 科目時間・実習時間数の最適化（→実習費・非常勤講師料）
 - 他支出項目も見直し 3 年目標を設定

2. 教育的取り組み

- (1) 低学力者支援体制の再構築
 - －入学前学習内容を再考
 - －全ての学生に目が行き届く授業運営（合同授業を廃止など）
 - －時間割の再考（非常勤都合の時間割から学生目線の時間割へ）

- －低学力者補講の拡充（GW明け開始、学事との調整）
- －学習習慣化支援（UMU→Google クラスルーム）
- (2) 夜間部オンデマンド授業の実現へ向けての検討を開始
- (3) 授業力向上プロジェクトとの連動
- (4) 首都圏近郊の臨床実習先確保と指導力の高いSVの確保
- －PT実習指導者講習会自校開催の継続
- OT実習先確保策の検討（同窓会との連携）

3. 物的条件

- (1) 本校舎教員室の改修工事
 - －学生相談スペース確保・保健室の充実（OT希望者獲得に貢献）
 - 教員間のコミュニケーション活性化&モチベーション向上
- (2) 第二校舎 老朽化した床材補修
- (3) 夜間部オンデマンド環境整備
 - －電子黒板（インタラクティブボード2台設置・新1年生教室）
- (4) 指定規則に則った教具の補充
- (5) 空調設備の更新（快適な教室環境の維持）
- (6) 本校舎・第2校舎LED化完了

4. 運営体制

- (1) 日リハの今後を考える会を設置
- (2) 委員会体制の見直しと権限の明確化
- (3) 教育課程編成委員会の教育的活用
- (4) 進級・卒業判定の明瞭化と履歴の保存
- (5) 学生相談体制の充実
 - －学生相談・支援課を設置
 - －合理的配慮委員会を設置

■日本児童教育専門学校における重点的な取り組み

1. 目指す姿

目的・ミッション・ビジョン等を明確化し、繰り返し周知し、学校の目指す方向性が共有されている

2. 組織戦略

課題発見・解決に自ら取り組める組織へと改善する2024年を『組織マネジメントの構築元年』と捉え、児教専の成長を長く阻んでいた、カルチャー・風土を数年かけ革新し「仲良しクラブ型」から「相互成長型」へと進化する。

- (1) ビジョン・現在の課題・方針の発信を強化：変革意思を示す
全体会・専任講師会・職員会議にて、ビジョン・課題を継続的に発信する
- (2) 評価・承認フローの整備
人事評価、経費・支払い承認、勤怠承認などのフローを整理し、管理職がメンバーの管理をするための体制を整える
- (3) 研修制度の整備
新入教職員の導入研修・全体研修・マネジメント研修を開始する
- (4) リスクマネジメント体制の構築
トラブル対応の基本フローを明確化する

3. 募集広報戦略

新しい魅力を作り、世の動きにあった募集活動を実施する

『学校全体で、学校のブランディング・魅力作りに取り組む』

- (1) グループ長（管理職）・メンバーを採用し、募集広報体制を強化する。
人員を整え、当たり前にするべきことを実行できる体制を作る
- (2) 学校全体の学生募集の意識改革
 - ・個別相談の対応者増員⇒研修を実施し一定の質以上の対応者を増やす
 - ・ウェルカム感の醸成⇒教職員全体の対応力アップ、環境面の整備
 - ・学生スタッフの育成⇒ベンチマーク戸板女子短期として育成する
- (3) 資格所持者への入学特典を設ける
子ども関連の資格所持者から保育士へのキャリアアップ・チェンジを促進
- (4) 公式ホームページの全面改修
来校者増加・運用の簡素化・運用のコストカットを目的として改修
- (5) 法人・企業連携を開始
スキーム作成（法人から学校に学生を紹介、学校から法人に応募者を紹介）

-----入学者見込の詳細-----

企業連携 10名：連携法人・企業からの紹介

紹介制度 2名：卒業生・在校生からの紹介

高校訪問 2名：高校訪問によるアプローチからの紹介

資格所持 2名：介護福祉士・ベビーシッター・チャイルドマインダーなどの
資格取得者への学費減免措置

訓練生 30名：ハローワーク訓練生からの獲得

通常来校 179名：来校数 380名、手続き歩留まり 47%で計算

入学者合計 225名

4. 数学マネジメント

学生の学びの質（特に教育レベル・学生対応レベル）向上に特化

- (1) 学生の DP を評価できる仕組みを作る

- (2) コマシラバスを設計する
- (3) 学生の DP 達成のための対応についての評価を実施

5. 別事業・附帯教育・経費削減

収益構造の改善への取り組み

- (1) 学費保証制度を開始し、回収率アップ・中退者減少・経費削減を図る
- (2) 授業の効率化・映像化で、人件費削減準備を始める
- (3) レンタルスペース事業の本格実施開始（連携企業・仲介サイト）
 - ー国家試験受験者への実技サポートの可能性も模索
 - ーユーキャンなどの通信教育業者とのコラボも検討
- (4) mimamoru 保育を 2024 年後期から実施
 - モジュール化・オンライン化し、受講しやすい形態へ
- (5) 現場で求められる学び直し講座を調査

■日本医学柔整鍼灸専門学校における重点的な取り組み

《ビジョン 2030》

未来のエキスパートたちと、
共に学び共に挑戦し続けます。

1. 教育力の向上

- (1) ブレンデッド教育の拡充と質の向上
- (2) オンライン授業の質向上のための施設設備の充実
(撮影スタジオ機能を備えた教室へリニューアル)
- (3) 授業力向上プロジェクトで取組んだ「ミニマムスタンダード」を実践
- (4) 科目ごとに、定期試験結果に基づく振り返りシートを用いた授業の改善
- (5) 試験問題のデータベース化、および試験問題作成を学校側で行い科目担当教員に提供するフローを導入（国試関連科目）
- (6) コンピテンシー（活躍する人材に必要な行動特性）をベースにした教学活動
(授業内、授業外活動、教職員の行動変容) の実践的取り組み
- (7) 教育 DX に向けた取り組み（教育のパーソナライズ化）

2. 柔整学科の募集力向上

- (1) 女子学生の募集・獲得の強化
- (2) サッカー部による新たな学生募集ルートの開拓
- (3) デュアル教育システム（働きながら実践力を学ぶしくみ）の導入
- (4) 美容、コンディショニング領域のコンテンツを拡充
(ヘルスケアにおける先駆的な取り組みを実践している施術所・企業との連携)

3. ブランディング

学校の価値を高め、圧倒的な競争優位性を構築するため、理念・教育目標・ミッション・ビジョンをもとにしたブランディングに着手

- (1) タグラインを使った広報活動
- (2) 校名変更の検討
- (3) ロゴ、スクールカラー、各種サインボードなど、設備類も含むあらゆるアウトプット物の見直しに着手

4. 組織風土づくりと教職員の人材育成

- (1) 組織風土づくりの KEYWORD
 - ・未来志向
 - ・一人ひとりの学生の可能性を尊重（学習のパーソナライズ化）
 - ・イコールパートナーシップ（協働、学生も教職員も共に学ぶ）
 - ・あくなきチャレンジ（先駆的であれ）Change & Challenge
- (2) 魅力づくりに合わせた人材育成・人材登用
 - ・〈教員〉専門領域 ex. 小児鍼灸、トレーナー、民間療法
 - ・〈職員〉プロジェクトマネジメントスキル、ファシリテーションスキル、仕組化
 - ・〈共通〉『仕事力』課題解決力、連携力（協働力）、クリティカル・シンキング

その他

- (1) 新たな海外連携先の開拓、研修プログラムの構築
 - ・フロリダ研修（University of Central Florida・IMG アカデミー）、台湾研修（中國醫藥大学）に加えて韓国研修を企画
 - ・上海中医薬大学による遠隔授業に加え、遼寧中医薬大学、成都第一骨科医院、New York College of Traditional Chinese Medicine との連携を推進
 - ・東南アジア（タイ、カンボジア、シンガポール）の教育関係機関・プロスポーツ関連団体との連携の模索
- (2) 付帯事業の準備
 - ・卒業後教育の拡充
 - ・教育プラットフォームの構築に向けた基盤整備

II. 各部門における重点的取り組み

■事業推進支援部における重点的な取り組み

学園経営のより一層の健全化を図るため、学校経営業績重要指標（学生募集、教育成果、中退抑止）に関する PDCA サイクルを回すとともに、学校間の情報共有の促進を図り、魅力ある「集まる学校」づくりに取り組みます。

1. 学生募集活動強化の取組み

- (1) 志願者目線における学校や学科の魅力づくりに関する活動支援の継続

- (2) 学園横断でのナレッジの蓄積
- (3) 学生募集活動の更なるブラッシュアップ
- (4) 競合校やマーケット状況調査

2. 教育の質向上への取組み

- (1) ミニマムスタンダード（授業設計、授業展開、授業評価）の導入・運用支援
2023 年度再スタートの「新・授業力向上プロジェクト」活動において策定した
コンテンツを各学校に導入・運用
- (2) 運用を通じてブラッシュアップした「スタンダード第2版」の策定検討
- (3) ICT を効果的に活用した教育プラットフォームの構築準備

3. 中退抑止に向けた取組み

学園横断のプロジェクト「中退率削減プロジェクト」を開催し、中退率5%未満を目標に中退抑止に対する活動を継続します。

- (1) 中退率の傾向と分析（連続欠席、要支援、退学、休学）
- (2) 各校の課題に対する意見交換と取組みの共有
- (3) 共通テーマに基づくワークショップや研修会の開催

■職業教育研究開発センター（RDI センター）における重点的な取組み

令和6年度～10年度の中期経営計画において以下の通り定めました。

➤ありたい姿

学園の教育訓練の質保証、教育訓練を通じた競争力強化に向けた教育力向上、ならびに教育改革に貢献できる組織を目指す

➤やるべきこと

1. 質の高い、競争力ある職業教育の提供に向けた教育改革の提案と推進
2. 教育力向上に向けた学園横断的プロジェクトの企画・推進、FD/SD の企画・実施
3. 受託研究事業等の調査研究成果の学園内実装化と事業開発による収益化

中期経営計画の初年度となる令和6年度においては、上記に基づき、以下に注力します。

➤学園教育支援活動

1. 職業教育研究集会の内容充実（教職員ニーズに対応したテーマ・企画等）
2. 敬心研究ジャーナルのデジタル化（読者の利便性向上、情報のオープン化、紙資源の節約による地球環境への配慮、コスト削減等の実現）
3. 新任教職員向け FD/SD の質の向上（事業推進支援部と連携）、職業教育研究集会の学園 FD/SD としての位置づけによる学園内 FD/SD の推進・充実
4. 研究倫理・研究評価審査・査読・ジャーナル編集の委員会体制の見直し、効率化
5. 学園の教育改革の方向性の検討と提案（事業推進支援部、各校と連携）

6. 事業推進支援部との連携による授業力向上プロジェクト、中退率削減プロジェクトの推進（授業設計・展開・評価の学園ミニマムスタンダード設定、および中退リスクの分析と当該データの入学者選考への活用等）
7. 研究成果の学園内実装化（介護×教育、留学生の戦略的確保で日福等と連携）

➤調査研究活動

文科省の委託研究事業に関し、令和5年度から実施している「専門職業人材最新技能アップデートのための専修学校リカレント教育推進事業」の継続、ならびに新規事業として「専修学校の国際化に向けた留学生の戦略的確保事業」に申請予定

➤事業開発（収益化）活動

インドネシアへの介護教育提供（実技評価の受託継続と教員研修の受託検討等）および、VR活用教育の拡販（導入研修・コンサルテーション等）

■学園本部における重点的取り組み

職業教育においては、学び直し（リカレント・リスキリング）への対応、並びに外国人留学生の受入れ強化が重要な使命となってきています。敬心学園では、この動向を先取りし、これまででも社会人の学び直し留学生の受入に注力してきましたが、今後は関連業界や企業と連携を密にし、ニーズに合った人材育成に取り組んで参ります。

また、「私立学校法の一部を改正する法律案」が令和7年4月1日に施行されます。

敬心学園では、ガバナンス体制の見直しを行うとともに経営基盤の強化を念頭に置き、以下の5点に注力し取り組みます。

1. 教学マネジメントの徹底と魅力ある教育サービスの提供

職業教育に求められる役割の変化を踏まえつつ、常に最善の教育内容を実現するための教学マネジメントを通じて、業界および学生の双方にとって、魅力ある教育サービスの提供に努めて参ります。業界と連携した新規事業の開拓、リスキリングおよび外国人留学生受入れ強化などに対応した施策の検討・展開を図ります。

2. ガバナンスの強化

令和7年4月1日の私学法改正に沿った実効性を備えた理事会・評議員会の体制作りを行い、透明性の高い学校運営体制の構築を目指します。

また、私学法改正において、求められている内部統制システムの整備においては、理事会運営規程、評議員運営規程等の策定・整備し、ガバナンスの強化に努めると共に、令和6年度に引き続き、学内の規程の整備に取り組み、コンプライアンスを徹底した組織風土の醸成に努めます。

3. 人事制度全般の見直し

教職員の能力発揮とモチベーションの維持・向上を目的とし、前年度に引き続き人事制度や人材育成制度の構築に取り組みます。人事評価制度の改定を実施します。

また、個を生かす人事配置・異動、中核教職員の確保及び育成をして参ります。

4. 事務部門体制の見直し

生産性及び業務品質向上を目指し、学務業務（経理、財務、総務、就職）等の体制の見直しを実施します。

5. 未来戦略企画室の本格稼働

学園の未来構想を策定し、実行計画を策定し推進するため、令和5年11月1日付で理事長直下に未来戦略企画を設置いたしました。令和6年度からは、活動を本格化させ、時代の要請を確実に捉え、学園本部・事業推進支援部等と協力し、グループ間連携を進め、学園全体のガバナンス改革・経営基盤強化を推進し、持続的に発展・成長できる学園を目指します。

Ⅲ. 設置する学校の定員および教職員数

令和6年度における入学定員・収容定員および教職員数は以下の通りです。

	専門職 大学	日本福祉		日本 リハ	日本 児童	日本 医専	専門学校		敬心全体	
		通学	通信				通学	通信	通学	通信
入学 定員	160	478	750	190	240	240	1148	750	1308	750
収容 定員	640	636	1250	760	520	720	2636	1250	3276	1250

(単位：人)

	専門職 大学	日本福祉		日本 リハ	日本 児童	日本 医専	専門学校		敬心全体	
		通学	通信				通学	通信	通学	通信
教員 数	47	25	5	35	14	25	99	5	146	5
職員 数	25	16	5	16	17	13	62	5	87	5

※非常勤講師やアルバイト職員は除く

(単位：人)

以上